

## 浅井辰郎先生の地図配布のお手伝い

松田孝一（大阪国際大）

筆者が 1988 年まで助手として勤務した大阪大学文学部東洋史研究室では、中国の歴史地図作成のための基本地図として、参謀本部の残した中国本土地図に大きな関心が向けられ、収集活動が行われていた。それらの収集を始められたのは、1970 年代のことで、布目潮瀧教授（当時：教養部）、斯波義信助教授（当時：文学部、現名誉教授）、本田治助手（現立命館大学教授）が中心となられた。まず、東大総合研究資料館所蔵資料をマイクロフィルムに撮影させていただき、その資料の目録を作成し、1976 年に大阪大学アジア史研究会から刊行した（布目潮瀧・本田治 1976）。そのマイクロフィルムやプリントは現在も大阪大学大学院文学研究科の東洋史研究室に所蔵され、研究の用に供されている。筆者の記憶が正しければ、このフィルムは関西大学と仏教大学の要請で、東大総合研究資料館の御許可を受けてそれぞれ複製が作られている。

その後、筆者は、研究室助手として、布目潮瀧教授の命を受け、新目録（布目潮瀧・松田孝一 1987）作成のお手伝いをした。新目録は、前目録に既刊の国会図書館・東洋文庫所蔵資料目録（西村庚 1967）、国立国会図書館所蔵資料の目録（同図書館 1982）の所載データに、お茶の水女子大学、京都大学人文科学研究所・同文学部地理学研究室・同東南アジア研究センター所蔵資料の調査データを加えたものである。

新目録に入れた資料のデータ調査に関しては、以下のように進められた。まず、お茶の水女子大学所蔵資料については、1978 年から、昭和 53・54 年度科研（代表者：布目潮瀧）により実施された。斯波義信教授がお茶の水女子大学に浅井辰郎先生をお訪ねして、調査とマイクロフィルム撮影の御許可をいただき、その後、本田助手、水野正明氏（当時：大学院、現駿台予備学校漢文科講師）が調査を行ない、東大総合研究資料館未収資料を中心として、全体の 3 分の 2 を撮影させていただいた。そのマイクロフィルムと焼きつけたプリントもやはり、現在も大阪

大学大学院文学研究科東洋史研究室に所蔵されている。

その後、布目潮瀧教授は、京都大学の各部局に所蔵されている関係資料の調査について、折衝され、所蔵地図の目録用データ（図名、測量、製版、発行年など）の収集作業を行った。筆者のお手伝いは、その折衝に随行することから始まった。1982 年の 2 月に地理学研究室、3 月に人文科学研究所、4 月に東南アジア研究センターを訪問して、各部局の多くの先生方や大学院生の協力を得て、作業を進めた。収集したデータと従来の目録データを合わせて、整理作成された新目録は、1987 年 3 月に『中国本土地図目録（増補版）』として東方書店より刊行した。



写真1 『中国本土地図目録』表紙  
（左が 1987 年刊行の増補版、右が 1976 年刊行）

新目録刊行後の翌月 87 年 4 月 15 日付で浅井辰郎先生から布目先生と筆者にお手紙をいただいた。そこには、それまで浅井先生が、多田文男先生と行った外邦図配布の経緯と、同氏宅に、資料の残部がなおあり、それらを希望者へ配布したいが、御自身には、アイスランド研究のため時間がなく、多田先生のご遺志に沿うために筆者のところで中国の分だけでも預かり、全国、外国の頒布希望者に配布できないかのご要望が認めておられた。

先生のお手紙で筆者は、刊行した目録が、実は多田・浅井両先生の地図配布先の一部の所蔵リスト

だということを知ることになった。そして筆者らの目録の対象とはならなかった収蔵機関がまだ他にもあったのだということも知った。

先生のお手紙には、それまでの配布先として立教大学東南アジアセンター、広島大学地理学教室、中国研究所、京都大学地理学研究室、ドイツ Bochum 大学、京都大学東南アジア研究センター、筑波大学、京都大学人文科学研究所、大阪大学アジア史研究会（複写が主体）、筑波大学と書かれていた。

筆者は、浅井先生からのご連絡があったのも何かのご縁と考え、先生の委託をお受けすることとし、11月10日に先生宅を訪問してお話を詳しく承った。同月13日に先生から6,040枚の地図が送付された。うち「満州」の地図約1,200枚のうち半数は両端が切除されたものであった。ただちに、それらの目録を作成し、中国本土、中国東北（旧満州）の2区分各12セットに整理し、写真全紙大印画紙用の緑色の函に納めた。同じ図幅で10数枚あるものもあれば、1枚しかないものもあり、セットNo.1が枚数が多く、順次枚数は減り、No.12が最も少なくなる。

No.1, 3, 5, 7の比較的枚数の多いものは、すぐに浅井先生へお返しした。先生のお話しでは、No.1は地図関係の博物館が実現した際にそこへ収蔵されることのであった。2007年2月17日の外邦図研究会で、博物館が実現していないこと、そして緑の紙函に納められた地図は浅井先生のもとに残され、現在は筑波大学研究室で整理中の地図遺品の中にあることを承った。

残りのNo.2, 4, 6, 8, 9, 10, 11, 12は2000年までに大阪大学文学部東洋史、関西大学、仏教大学、奈良大学、大阪国際大学などの機関及び研究者へ配布した。残余を筆者の研究室に保管していたところ、思いがけず、『日本経済新聞』（2004年1月31日）の記事（「日本軍の地図大量に現存」）により小林茂教授が旧参謀本部作成の地図の現存状況を総合的に調査されていることを知り、御連絡を取らせていただき、寄贈さ

せていただくことをお願いして快諾していただいた。同年3月3日に大阪大学文学部地理学研究室にて小林教授にお渡しし、浅井先生から委託されていた6,040枚すべての配布を完了した。

配布を完了した旨、寄贈先リストを付して、すぐに浅井辰郎先生に書面で報告したところ先生から折り返しお電話をいただいた。1987年に先生宅を訪問した折りに、先生がそれまでの寄贈先などをびっしりと細かな字で書かれた分厚いノートをお開きになっていたことを記憶しているが、このたびの電話では、先生が筆者に地図を委託したことについては、すでにご記憶になっておられなかった。ただ、お話しているうちにことの経緯は御理解していただけた。

以上が筆者が関わった外邦図、特に中国本土地図の目録作成と浅井先生の地図配布事業との関わりである。中国本土地図は、近年の中国の開発の進展で姿を変えて行く中国の景観を記録するものとして極めて貴重な歴史資料でもあり、また筆者の研究している13世紀～14世紀の中国の景観すら中国本土地図の上に読み取ることができることも多く、拙論で何度か活用できた。今、それらがデータベースとして知的財産として共有されつつあることに喜びを感じるものであり、多田文男、浅井辰郎両先生がその保存と利用の道を開かれたお心を多とするものである。

## 文献目録

- 西村庚 1967：同（編）『中国本土地図目録：国立国会図書館及び東洋文庫所蔵資料』極東書店
- 布目潮颯・本田治 1976：同（編）『中国本土地図目録：東京大学総合研究資料館所蔵資料』大阪大学アジア史研究会
- 国立国会図書館 1982：同（編）『国立国会図書館所蔵 地図目録 外国地図の部(1)』
- 布目潮颯・松田孝一 1987：同（編）『中国本土地図目録増補版』東方書店、第2版（1990）